

電話会議開催日：2020年8月7日

2021年3月期 第1四半期連結決算電話会議 質疑応答

【質問者1】

Q： 上期の売上高のセグメント別、並びに上期の持分法損益の値を開示可能であればご教示いただきたい。

A： 今回は上期・下期で分割した数値は開示していません。ご了承ください。

Q： QB2の建設中断コストは時期的にどの四半期で計上するのか。

A： 上期と下期両方で計上、概ね半々での計上と見ている。

Q： 決算補足説明資料5ページ目の売上総利益について、上期と下期の売上総利益の変動について解説いただきたい。例えば、資源であれば銅や金の建値が上昇しているにも拘らず、下期は上期に対して減益になる。その理由をご教示いただきたい。

A： 資源については、菱刈で上期増販しているものの、年間の数量は6.0tで計画していることから、相対的に下期は数量が減る。この影響が大きく、資源は下期予想が上期比較で減益になる。製錬については、主にニッケル系の工場のコスト差が好転することにより、下期予想は上期比較で損益が好転する。材料については、下期以降の自動車需要の回復を前提として、電池のフル生産・販売を見込んでいることで、下期予想は上期比較で損益が好転する。

Q： 新型コロナウイルスの影響による海外鉱山の減産影響について、開示可能であれば抜き出して上期・下期に分けて定量的にご教示いただきたい。

A： こちらも申し訳ございませんが、開示していません。ご了承ください。

【質問者2】

Q： 決算補足説明資料1ページ目の税引前損益の比較解析を見ると、当期実績と前年同期比較でコスト差が悪化している。一方で、同ページの2020年度通期予想と前年度比較を見るとコスト差が好転する見通しとなっている。下期にコスト改善を織り込んでいると読み取れるが、その要因についてコメントいただきたい。

A： いずれも海外銅鉱山が主要因。シエラゴルダの生産が順調で、年間でのコスト差の好転につながっている。

Q： フリーポート・マクモラン社の決算発表を見ていると、2Q・3Qから海外銅鉱山のコストが好転する計画になっている。（生産量が回復していく）セロベルデは分かるが、モレンシーなどは何を要因にコストが減少する見立てになっているのか。

A： モレンシーは操業度と投資活動の削減など、操業計画の見直しによってコスト改善を図ることを見込んでいる。

【質問者 3】

Q： 電池材料で在庫調整があったとのことだが、自動車の需要全体が落ち込んでいたことによるもので、特にサプライチェーンの中で問題があったわけではないという理解で良いか。

A： ご認識のとおり、自動車需要全体の落ち込みの影響によるものである。

Q： 電池材料の拡販について、正極材の中でもリン酸鉄系などの再評価の動きもあると思うが、住友金属鉱山の製品拡販に向けたストーリーに何か変化点はないか。

A： 現時点で特にこれまでの方針の変更はない。

【質問者 4】

Q： 上期から下期へのニッケル、フェロニッケル、硫酸ニッケルの生産量・販売量予想について、年度を通じては前年を上回る数値になっている。顧客からの引き合いといった何らかの裏付け、前提があるのかご教示いただきたい。

A： すべてのセクターで需要減退が顕在化している状況であり、世界各地における新型コロナウイルスの終息時期や各国の経済対策などにより大きく変動するため、現時点で具体的な影響を測りがたい状況にはあるが、最大需要家である中国・インドの経済活動再開を背景に、今後緩やかな需要回復を見込んでいる、というのが前提。

Q： シエラゴールドの損益改善の見通しについて、品位の高い箇所を掘ることにより、増産で損益トントンを目指す、という計画だったと思うが、今の事業環境下において、このシナリオが計画通りに進捗すると期待して良いのか。

A： 元の計画に沿った操業を続けており、新型コロナウイルスの影響も特段受けていない。2018 年中期経営計画の最終年度である 2021 年度においては、デボトルネッキングによる鉱石処理量の拡大、銅品位の好転などにより、銅メタル量で生産量 200kt を目指している。この目標に向け、当期 2020 年度としては 144kt を見込んでおり、進捗としては順調。

以上